
NEBULA
STEFANO JEFF BLUES

NEBULA · TRACKLIST

| | | |
|---|---|---|
| I | Recurrence | 3:27 |
| II | Still Moving | 3:07 |
| III | Trace | 4:02 |
| IV | Almost the Same | 2:31 |
| V | Drift | 3:18 |
| VI | Within | 3:00 |
| VII | One Note Apart | 2:58 |
| VIII | Elsewhere | 3:04 |
| IX | Slowly Becoming | 3:14 |
| X | Afterimage | 2:51 |
| XI | A Different Return | 2:53 |
| XII | What Remains | 3:08 |
| XIII | Back to Zero | 3:11 |
| XIV | Nothing Returns Unchanged | 3:28 |

Total 44:10

戻ってくるものがある。けれど、それが本当に同じであることは一度もない。 ひとつの思い、ひとつの記憶、ひとつの仕草。私たちはすぐにそれを見分ける。それでも、何かが変わっている。変わったのはそれ自体ではなく、私たちの聴き方なのかもしれない。

このアルバムは、その想いから生まれた。

どの曲も、わずかな要素から形をとっていく。ひとつの音型、ひとつのアルペジオ、ひとつの鼓動、短い和声の連なり。素材は戻り、繰り返し、自らを気づかせる。そしてゆっくりと変わり始める。ひとつの音が位置を変え、アクセントがずれ、和声が開き、音域が広がり、緊張が現れては消えていく。ときには、予告もなくメロディが浮かび上がる。まるで最初から、繰り返しの中に隠れていたかのように。

和声がほとんど動かないように思えるときでも、動きは途切れずに続いていく。手は走り続けるのに、時間は宙に浮かんだまま。この矛盾の中にこそ、音楽は自分の居場所を見つける。同じ場所にとどまりながら、前へ進むこと。

新しいアイデアを次々と積み重ねて曲を作ろうとはしなかった。そのかわりに、ひとつのアイデアの中にどれほどの可能性が存在しうるのかを見つけようとした。

だから、繰り返しは決して単なる繰り返しではない。それは記憶であり、待つことであり、変容である。 戻ってくるものは、それ以前に起きたことの痕跡をたずさえている。

こうして形は内側から生まれる。提示し、繰り返し、変容させ、広げ、高め、削ぎ落とし、そして最後に戻る。けれど出発点がふたたび現れるとき、それはもう、まったく同じ意味をもってはいない。

おそらくこれこそが、このアルバムの本当の主題なのだろう。変化そのものではなく、変化に気づくということ。 ある種の変容は、起きている間はほとんど目に見えないのだから。 私たちがそれに気づくのは、始まりに戻り、同じだと思っていたものがもう同じではないと知ったときだけだ。

*Everything returns. Nothing returns unchanged.*

Everything returns.
Nothing returns unchanged.







Music, composition & production

Stefano Jeff Blues

Artwork & art direction

Stefano Jeff Blues

Recorded & produced in

Bologna, Italy · 2026

www.stefanojeffblues.com

(P) & © 2026 Stefano Jeff Blues. All rights reserved.